



消えゆく風景・生き続ける思い出

# 木造校舎の旅

鹿沼北小学校  
(栃木県鹿沼市)

写真と文  
芦澤明子



鹿沼北小学校 (栃木県鹿沼市)  
昭和10年築・現在も使用中

鹿沼市は日光東照宮を作った大工たちが移り住んだといわれる大工の町、職人の町である。路地のすみずみまできちんとかたづけられた様子は旅人にも心地よい。その町に凛として建つ鹿沼北小学校。昭和10年築であるから、人間でいえば70歳を超えている。昭和初め「日本一の学校をつくろう」という地元の意気込みは並大抵ではなかった。資材の吟味が厳しく、持ち込んだ材木の2〜3割しか納入を認めてもらえなかったありさまで、業者からは「鹿沼の泣き学校」という異名をつけられた。

何万人もの子供たちが駆けぬけていった正面玄関の階段。

良質の松材が使われ、幅3.6mもあり、途中の踊り場で左右に分かれている。玄関に一步足を踏み入れると校舎が語りかけてくる。実に自然に「こんにちは、お邪魔します」と対話が始まる。築50年が過ぎ、この校舎のこれからが議論された時、地元の人たちは、「当時の人々の熱い思いが刻まれた校舎を何とか残したい」と要望し、行政もそれを受けて総工費6億円をかけて改修工事を行ない、後世にこの校舎を伝えることになったという。木造にこだわった工事だった。子供たちはこの校舎を慈しみ、大切にすることで、いろいろなことを学び、心豊かに育っていくことだろう。まれにみる幸せな木造校舎だ。

校歌

黒崎 寿 作詞  
野原寺三 作曲

雲居の空にそびえたつ

尊き清き二荒山

心の法と仰ぎつつ

いざ磨きなんひとすじに

鹿沼の里にもいいでし

正しく直き麻のごと

世の人草の鏡とも

いざ伸びゆかんとことわに

写真と文・芦澤明子(あしざわ あきこ) シネマトラファニー  
女性のテレビカメラマンの身分的存在として、多くの歌謡作品  
テレビ・CM・ショールの撮影をすべからず、15年以上にわたって全国の  
消えゆく木造校舎の貴重な記録を写真作品として残らしている。